

## 一三 総合開発への希望

### 1 第二期拓殖計画における問題点

昭和二年度から実施せられた第二期拓殖計画は、その後八箇年を経過して管内の開発にも大きな効果をもたらしたが、その後における一般経済界及び本道拓殖の状況は著るしい変化を来し、改めてその計画に再検討を加える必要に迫られた。そこで昭和十年四月日高支庁は、北海道第二期拓殖計画改訂意見書を長官宛に提出した。これによると、当時の拓殖費関係の諸問題がよく判るのである。

#### 拓殖計画改訂ニ関スル要望

本道ノ状況ニ鑑ミ第二期拓殖計画ノ改訂ヲ為サントスルハ蓋シ緊要ノ事務ナリト信ズ而シテ之カ改正ニ当リテハ開拓上幾多改善スベキ施設事項多シト雖願フニ地方ノ開発ハ産業ノ興隆ニ俟タザルベカラザルヲ以テ特ニ重点ヲ産業ノ振興ニ置キ豊富ナル天然資源ヲ開発スルハ勿論從來ノ各種原始産業ヲ加工産業タラシムルト共ニ財源ノ涵養トナルベキ下記ノ施設事業ヲ興起セシメ以テ本道ノ健全ナル発達ヲ期セラレムコトヲ望ム

#### 綱 要

- 一、移殖民へ農家ノ二三男ニ重点ヲ置キ且ツ拓殖実習場ノ課程ヲ了シタルモノヲ殖民スルノ方策ヲ講ズルコト
- 二、民有未墾地ノ開放ヲ促進スル方策ヲ講ズルコト（不在地主占有未利用地開放促進ノタメ開地特別税ヲ賦課スルコト）
- 三、鉱業ノ進展ヲ期スル為ニ鉱脈調査ヲ為シ企業ニ容易ナラシムルノ方策ヲ講ズルコト
- 一三 総合開発への希望

二六九

#### 第四編 新時代への歩み

二七〇

- 四、農業経営ノ安定ヲ期スル為ニ之カ指導奨励機関ノ充実ヲ図ルコト
  - 五、水産業ノ円満ナル発展ヲ図ル為メ之カ指導奨励機関ノ充実ヲ図ルコト
  - 六、生産販売機関ノ充実ヲ期シ且ツ之カ統制ノ合理化ヲ図ルコト
  - 七、特殊土壌ノ改良ヲ徹底シ生産力ノ増進ヲ図ルコト
  - 八、交通機関ノ完備ヲ図リ地方ノ開発ニ資スルコト
  - 九、治水並ニ河川改修護岸施設ノ徹底ヲ図リ国土保安ノ方策ヲ講ズルコト
  - 十、漁業及船入湖ノ修築拡張ヲ行ヒ以テ漁村ノ振興ヲ策スルコト
  - 十一、林業経営ノ根本的大策ヲ講ズルコト
- 以上各項を更に具体的に説明しているが、各町村よりの要望書中より右を裏書するもの若干をえらんでみると、平取村は上貫気別荷負間の殖民軌道を平取に延長すること、沙流川の治水、メム原野の開発をのぞみ、また「土人児童ノ九割ハ肺結核菌ノ保有者ナリト聞クステハ和人児童ト混同教育セル場合甚ダ危険ナリ」とものべ、これが対策を要請している。門別村は船入湖の築設、沙流川の治水、厚別川上流に通ずる殖民軌道を必要とし、新冠村は御料地の解放、厚別川上流に通ずる殖民軌道、船入湖の修築、畜牛の導入等を重視している。また静内町は船入湖治水工事畜牛の導入と共に、鉱山調査の必要を述べ、ついで海岸に平行して内陸農村を連ねる「日高中央道路」の実現をのぞんでいる。三石村は船入湖完成、畜牛導入、泥炭地の開発を要求し、荻伏村も船入湖を必要とし、土地改良と農産加工場の施設をのぞんでいる。浦河町は、漁港工事の促進、幌別川の治水、水産試験場の設置、昆布礁の造成をかかげ、類似も漁港の拡張と泥炭地の改良が問題であるとし、幌泉村に漁港修築、省営バス開通をのぞみ、更に襟裳地方の海難救護施設を要望している。

## 2 日高総合開発の基本構想

昭和二十七年日高総合開発期成会は、日高の開発に対する問題を次のように決定した。

- 一、日高線スピードアップ
- 二、日勝鉄道の敷設
- 三、日高中央幹線道路の完成
- 四、日高十勝連絡道路の開さく
- 五、開拓の促進
- 六、奥地林の開発
- 七、治水事業の実施
- 八、浦河港の拡充
- 九、各港湾の整備
- 一〇、地下資源の開発
- 一一、電源開発
- 一二、河川総合開発事業
- 一三、水産孵化場日高支場の設置
- 一四、水産指導所の設置

さらに昭和二十八年四月、以上の諸問題を検討具体化して基本構想とした。即ち然道港湾道路に関する交通施設計画を第一とし、電力施設計画をたて、農林水鉱工の各種生産施設計画、治水河川統制砂防治山等の国土保全施設計画、ならびに都市計画水道住宅教育厚生等の民生施設計画に及んでいる。

#### 一三 総合開発への希望

二七一

#### 第四編 新時代への歩み

二七二

### 3 日高奥地林の開発

昭和二十六年北海道開発庁において、第一次開発五箇年計画が決定した。これが事業実施にあつては、地域の実態を調査することが先決問題であつた。日高の奥地林はその蓄積量と共に林相は双雲峽、トムラウシに匹敵するものがあるといわれる。昭和二十六年夏北海道開発局は、北海道庁林務部札幌営林局とタイアップして、十四万町歩に及ぶ地域十一の主要河川流域ごとに調査を行い、さらに開発計画のアウトラインをたてた。これによつて林道のなままま行つていた奥地林の利用もすゝみ、日高開発の有力な力となる希望がこくなくなつてきたのである。

### 4 総合開発計画の現状調査

昭和二十八年十月、北海道総合開発委員会は中間発表として、日高の自然的社会的条件の概要と既存産業、河川、交通の現状と開発の方向などの諸問題を指摘し、今後必要な施設を推進する資料としようとして、科学的な分析を行つた。日高の特殊性は、この報告によつてあきらかとなり、これらが基盤となつて自から開発の意欲も高められるということになるのである。

#### 一、日高の農業の問題点

豆類連作の危険、牛の導入、二三男の問題、水利と水田の問題、商品の割高と農産物の割安

#### 二、林業の問題点

奥地林の開発、造林の強化、治山施設、林業が住民の生活にプラスされるものであること

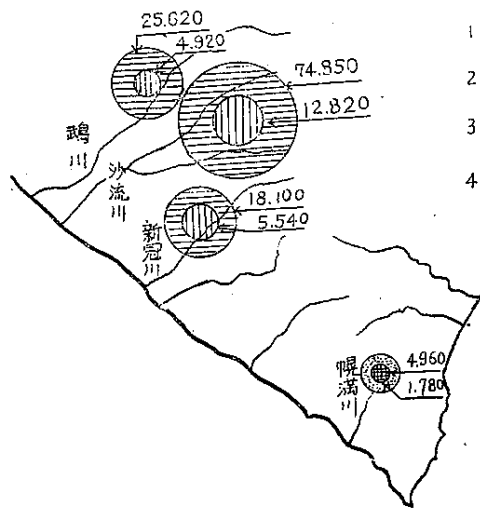
#### 三、水産業の問題点

資源の保護、沖合への進出と機船の整備、幌泉方面の商品流通面の打開、漁村と畜牛

#### 四、工業の問題点

以上叙述した計画の中には、既に実施中のものもすくなくない。浦河港の拡張、魚港の修築、幌満第三発電所、各地の砂防工事、佐留太橋の架設などはその例である。二級国道室蘭浦河線富川の河川に、昭和二十六年八月工着された佐留太橋は、全道有数の長大永久橋で延長四〇〇米、中身六米工費一億八千六百万円を要し、日高の関門にふさわしい一偉観である。

日高の包蔵水力 (kw) 25年6月



- 1 既開発最大出力
- 2 " 常時 "
- 3 未開発最大出力
- 4 " 常時 "

第四編 新時代への歩み

発展の低さ、原料費の割高、電力不足

五、水力の問題点

未開発、包蔵水力四〇——五〇万KW、

企業に有望

六、交通の問題点

道路網の不備、道路の延長及質の劣っていること

鉄道も右と同様である

鉄道と道路の連絡の弱体

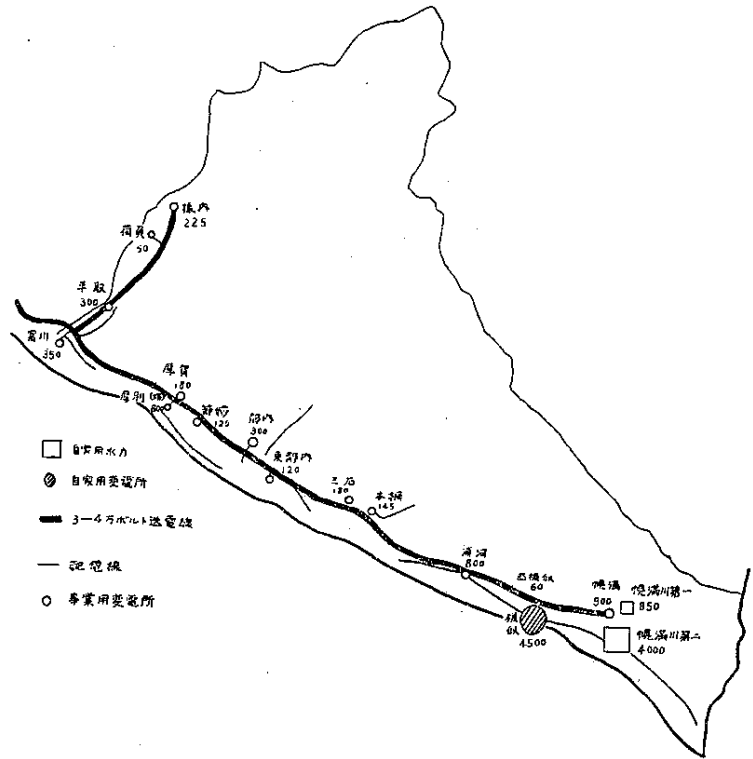
海上輸送系統に対する検討の必要

七、河川に関する問題点

洪水が多い、砂防工事、貯水池の必要

灌漑用水としてもつと利用していくこと

電力図 (24年4月)



一三 総合開発への希望